

避難所の拡充と備蓄品の分散を



榎本雅夫 議員

質問

ライフラインが寸断された場合のために、生活物資などの備蓄品の分散をしていますが、特に佐屋地区については、

総務部長

各小学校の一部の空き教室を使用できないか、教育委員会に相談している。



市民生活部長

住宅の補助件数は、17年から23年まで301件。本年度の50件の予算額の枠は終わっている。

市の助成額は1kwについて5万円、20万円を上限で県内では高い方に位置している。今後は近隣の市町の状況など注視し考えていく。

質問

緑のカーテンの実施状況は。

総務部長

本庁舎、一部各庁舎、佐屋公民館、小学校で8校、中学校1校で取り組んでいる。

質問

会社や大型スーパーの駐車場などを避難場所として使用できるよう協定できないか。

総務部長

市内のヨシヅヤ佐屋、勝幡平和店の3店舗において、駐車場及びトイレ借用の協定を結んでいる。他のスーパーや民間施設、商業施設の3階以上の高い建物を限定して調査をしている。今後、協力をし

てもらうような形で、意向調査をしていきたいと考えている。

質問

市内には、第1次、2次と指定避難所が53カ所あるが、遠くて時間がかかる地域もあるので、近くの公民館など使用できないか。また、指定避難所の受け入れ態勢は。

総務部長

町内の公民館は各町内の管理施設という位置付けであるので、現時点では地元の判断であると考えている。指定避難所については、施設を管理している担当課が、カギも保管し即時開放するような準備態勢をとっている。

節電と温暖化対策は

質問

中部電力が浜岡原発の運転を停止に決めたので電力不足が考えられる。企業や他市では節電対策に取り組んでいる。本市の節電については、また、LED照明に替えてはどうか。

総務部長

市としてのガイドラインを定めた。基本的には照明灯のスイッチは小まめにオン・オフをする。1本置きの照明灯

質問

太陽光発電の設置状況と今後の取り組みは。

総務部長

永和地区防災コミュニティセンターに設置しており、今後は総合斎苑、給食センターに設置する。